

ボランティアの活動状況

災害ボランティアセンター開設以前の震災発生直後から、個人や団体などが給水や食糧提供、避難所運営の支援、ガレキなどの撤去作業などに従事しました。

2011年(平成23年)3月19日に東松島市社会福祉協議会が開設した災害ボランティアセンターでは、住民が自主的に復旧・復興できない部分、行政が取り組むことができない部分の復旧・復興を支援するため、全国各地のボランティアに支えられながら活動を行ってきました(下記参照)。

活動年月	ボランティア ニーズ(件)	ボランティア 登録数(人)	ボランティア 活動件数(件)	主な活動内容
2011年 3月	500	903	283	・避難所支援 ・泥の除去作業 (屋内、床下、庭、 物置内、空き地、 側溝など) ・瓦礫撤去 ・床板はがし ・家財の運び出し ・引越し作業 ・お茶会 ・植栽活動など ※復旧が進むにつ れ、ボランティアへ のニーズや活動内 容が変化してい きました。
4月	1,009	5,411	1,079	
5月	545	12,318	2,500	
6月	382	13,217	1,100	
7月	248	11,610	855	
8月	93	4,446	281	
9月	66	773	111	
10月	40	435	69	
11月	22	260	35	
12月	5	108	22	
2012年 1月	6	16	2	
2月	5	31	9	
3月	8	31	7	
合計	2,929	49,559	6,353	

※8月13日から社協生活復興支援センターとして活動

■災害ボランティアセンター設置
期間

2011年(平成23年)3月19日
～8月12日

■運営主体

東松島市社会福祉協議会

■運営スタッフ

社協関係者、自治体関係者、企業・NPO・団体関係者、個人ボランティアなど(開設当初12人～最大人数48人)

■運営体制

運営本部、ニーズ・依頼受付班、ボランティア受付班(個人・団体)、データ入力班、マッチング班、資材・送迎班、サテライト班



山形県東根市からのボランティアの皆さん

ボランティア・支援団体による「東松島復興協議会」の概要

震災発生直後から、東松島市内には復旧・復興支援のために、全国からボランティア団体やNPO・NGOが様々な活動を行っています。市外から支援活動にきている支援団体と市内の支援団体・関係機関が集まり、2011年(平成23年)9月に「東松島復興協議会」が設立されました(事務局:あったかいホール内)。

協議会では、市内での復興支援のために、各団体間の情報共有と連携の促進、市・市社会福祉協議会とサポートセンターとの情報共有と連携および提言、地域社会における人材育成などの支援活動を行っています。

■参加団体数 34団体<2014年(平成26年)1月現在>

福祉・健康分野におけるサポート活動 ～医師・保健師などが一体となり震災で被災した市民の健康をサポート～

地元の医師、支援機関などと市の保健師が連携を図り、震災後の生活の変化や市民一人ひとりの健康状態を把握しながら健康づくりをサポートしてきました。ここでは震災後の市の保健師の主な動き・取組みなどを報告します。

●市の保健師の震災直後から1年間の主な活動

■フェーズ(段階)0(震災直後24時間)

災害対応体制として、保健福祉部の保健師は健康推進課に一括配置され、保健師11人中8人が市災害対策本部の指示の下に置かれた。

保健師2名と事務1名のチームを編成して大きな9つの避難所の初期巡回を開始し、傷病者への対応を行うと共に避難者数とハイリスク者の把握を行った。また、透析患者、負傷者、具合の悪くなった避難者への診察や病院への搬送要請に対応した。

矢本保健相談センター内には救護所を設置し、津波に巻き込まれ低体温や負傷した被災者の処置、医療機関への緊急搬送を行った。避難所となった矢本保健相談センターに隣接している老人福祉センターでは、意識レベル低下者の看護・介護・更衣を社会福祉協議会ヘルパーと協力して行った。

■フェーズ(段階)1(震災後1日～3日)

3月13日に東京都と栃木県の赤十字病院の災害派遣医療チーム(DMAT)が到着し、2か所の避難所巡回診療が行われた。翌日には3チームとなり新たに7か所の避難所巡回診療が行われた。この巡回診療には市保健師も同行し、発災翌日と同様にニーズの把握を含む避難所の状況把握に努めた。

■フェーズ(段階)2(震災後3日～2週間)

全避難所の巡回診療実施のため、朝と夕方に石巻赤十字病院で開かれる石巻圏合同救護チーム本部会議に出席してさらなる救護チームを確保し、各避難所に3日に1回の巡回診療を開始した。地元医師たちも、自ら被災し避難生活をしながらも、発災直後から自主的に避難所内で診療や健康相談などを継続していただいた。

津波被害によりアクセスが困難となった宮戸島と赤井地区の巡回診療には、市災害対策本部に駐留している陸上自衛隊と航空自衛隊衛生班の協力を要請し、ヘリコプターや特殊車両による避難所巡回を開始した。避難所巡回には保健師も同行し、ハイリスク者の把握や水・衣類・食糧・薬品・生活物資などの必要物資の把握を行い、各担当課に連絡した。3月19日からは、東京大学医学部付属病院精神科医療チームによる心のケアの避難所巡回診療を開始し、自宅に残って生活する精神障害者も数多いため、保健師が同